

## 図書館情報学の基本文献における文庫記述の分析

文化創造専攻 図書館情報学領域

17002CLM 横江 佑音

### 修士論文要旨

#### 研究目的

日本では明治期に西欧先進国から学ぶ形で図書館制度を整えたが、前近代においても主として文庫と称される施設が長く存在した。そうした文庫が明治以降の近代的な図書館の下地となる存在なのか否かという問題が議論されているが、その探究のためには文庫が実際にどのような実態であったのか知ることが必要である。そこで本研究では、前近代日本の図書館の実態に関する図書館情報学の共通認識を明らかにすることを目的として、図書館情報学の基本文献を対象に江戸時代までの文庫に関する記述の分析を行った。

#### 方法

まず調査の対象として、明治維新以前の日本の図書館に関する記述の見られる資料25点を選定した。内訳は、レファレンス資料（用語辞典および便覧）3点と、大学生等初学者を対象とするテキストブックおよび概説書22点である。その理由は、これらが当該学問分野において評価の定まった情報のみが記載される資料種別であるため、図書館情報学における共通認識を反映していると考えられるからである。

調査手順としては、個々の文章中から、文庫施設に関するファクトデータ（名称、設置主体、数値的事実など）と、位置づけ・意義・影響に関する評価記述を抽出し、分析・考察を行った。

#### 結果と考察

調査では、まず、各資料における文庫の言及数、すなわち、各資料でいくつ文庫が取り上げられているか集計した。レファレンス資料を除く22点で合計386件の文庫が言及されていることがわかった。また、資料ごとの言及数が大きく異なっていることもわかった。

次に、おのおの文庫がいくつの資料で取り上げられているかを集計した。足利学校が22点全てで言及されており、金沢文庫・水戸藩文庫（彰考館文庫）は21点で、駿河文庫・尾張藩御文庫・紅葉山文庫は20点で言及されているなど、共通して重要視される文庫を特定することができた。

続いて、そうして明らかになった主要な文庫に関する詳細な記述内容を分析した。調査項目は以下のとおりである。

名称・別称, 所在地, 設立目的, 時代区分, 設立年, 設立者, 関係者, 存続期間,  
蔵書数, 所蔵資料の内容, 収集方針, 目録の有無, 蔵書印, 分類方法,  
施設設備, 変遷, 施設および蔵書の現在の状況, サービス対象, 利用実態

### 結論と今後の課題

本研究では、基本文献の記述の分析により、図書館情報学分野において文庫についてどのような情報が一般化・共有されているか、その概況を明らかにした。今後、各資料の記述内容を項目ごとに整理・統合し、どんな点がどこまで明らかにされているか把握できるデータベースを構築することにより、今後の図書館情報学における文庫研究に貢献するよう努めたい。